

令和元年度 佐井寺留守家庭児童育成室の検証結果について

令和2年12月

吹田市教育委員会

地域教育部 放課後子ども育成課

吹田市立佐井寺留守家庭児童育成室「はるのこ学級」（以下「佐井寺育成室」という。）については、平成30年4月からこれまでの直営での運営から、株式会社セリオに業務委託している。委託期間は、平成30年4月から令和3年3月までの3年間である。

児童福祉法において、事業に必要な水準を確保するため、市町村による事業者への調査や命令等が定められており、運營業務を民間に委託している留守家庭児童育成室（以下「育成室」という。）の運営状況に関して、過去からの推移を含め、放課後子ども育成課による検証を行い報告するものである。

～検証方法～

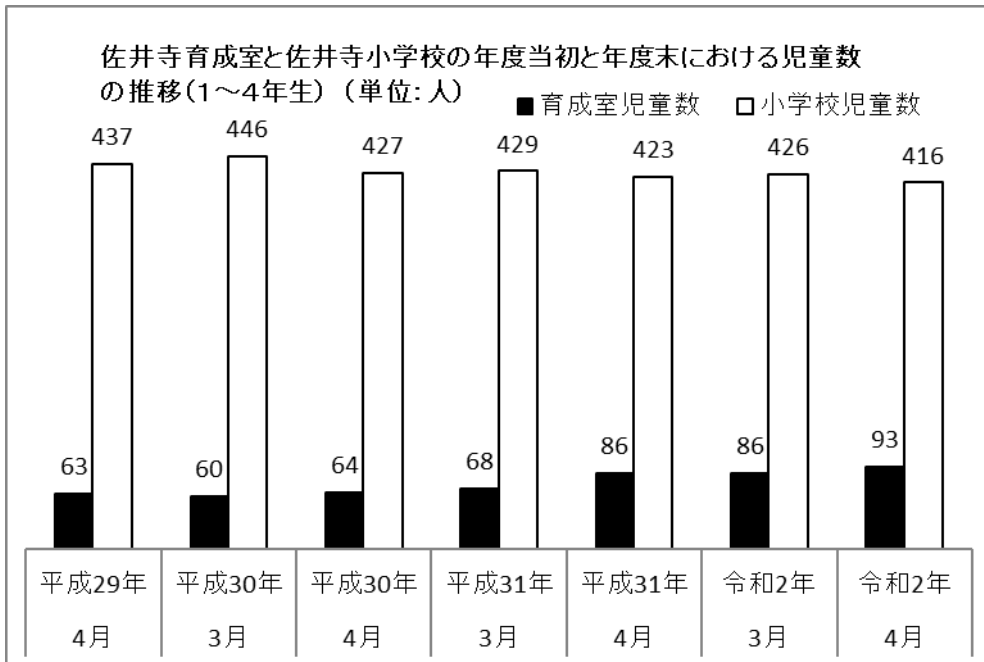
- 1 放課後子ども育成課職員 [担当事務職員、スーパーバイザー（S V ※元公立保育園保育士）] による現地視察（週1回程度）
- 2 保護者へのアンケート：委託初年度 年間3回、2年目以降 年間1～2回
- 3 事業者への聞き取り
- 4 チェックシートを用いた業務の履行状況の確認と評価

1 入室児童数について

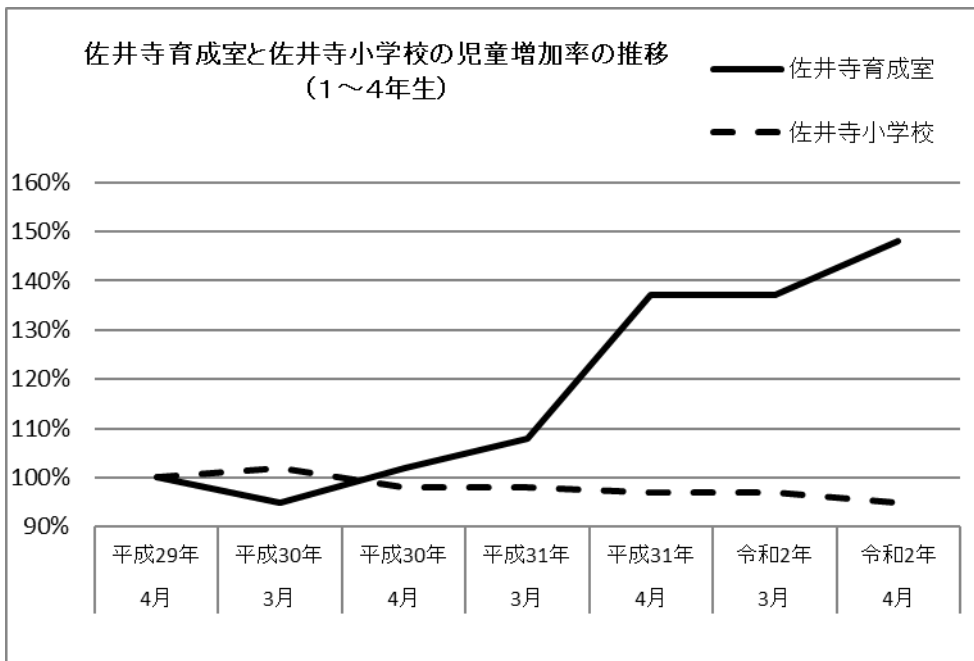
佐井寺育成室については、平成31年4月時点で86人在室（学年内訳、1年：28人、2年：21人、3年：25人、4年：12人）しており、うち配慮を要する児童（障がいをもつ児童）が2名在籍している。2教室で運営しており、1室あたりの児童数は、43人となっている。児童数の規模としては、36育成室中16番目であり、育成室の中では中規模である。

今後の児童数の推計は、小学校児童数はゆるやかに逓減する見込みだが、令和元年度以降の入室児童の増加率が大きく、一時的に就労支援を必要とする家庭の割合が増えている地域であると推察される。令和2年度から3教室で運営している。【表1・2】

【表 1】

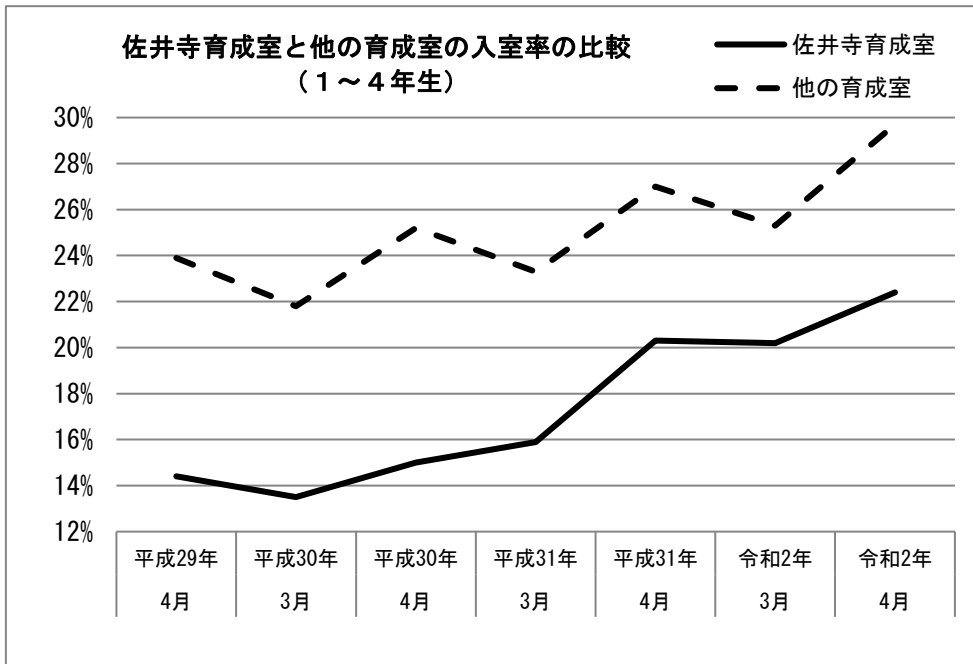


【表 2】



佐井寺育成室の令和元年度の入室率（小学校児童のうち育成室を利用している児童の割合）は【表 3】のとおりとなっている。佐井寺育成室の入室率は、他の育成室と比べておよそ 10%程度低い率で推移してきたが、平成 31 年 4 月当初は、入室率が増加して約 7% 差に縮まっており、この値からも保護者が民間事業者である現在の委託事業者による運営内容に不安を感じるなどにより、入室を控えていることは読み取れない。

【表 3】



2 保育内容について

(1) 日常における保育の取り組みについて

佐井寺育成室の日常の保育の取組としては、仕様書に沿って行われており、児童の健全育成への貢献は十分であると認められる。理由としては、以下を挙げることができる。

ア 児童の登室、帰室状況等の把握を確実にしている

育成室のホワイトボードを活用し、入室児童名のマグネットを用いて、登室、帰室状況や早帰りの時刻、延長利用の有無等の情報を掲示している。これにより、入室児童は視覚で確認することができ、指導員間においても、常に最新の登室児童の状況を共有し合うことができ、登室管理をしっかりと行えている。

イ 連絡帳の確認を行い、児童の様子を保護者へ伝えている

育成室の入口横には指導員の机が置かれており、児童が育成室へ入室すると同時に連絡帳を提出し、担任が児童の健康状態や早帰り等の予定を把握している。また、児童の様子をその日によく関わった指導員が連絡帳に記載するようにしており、保護者への情報発信もしっかり行えている。

ウ 班活動や遊びを通じた児童の集団作りを行っている

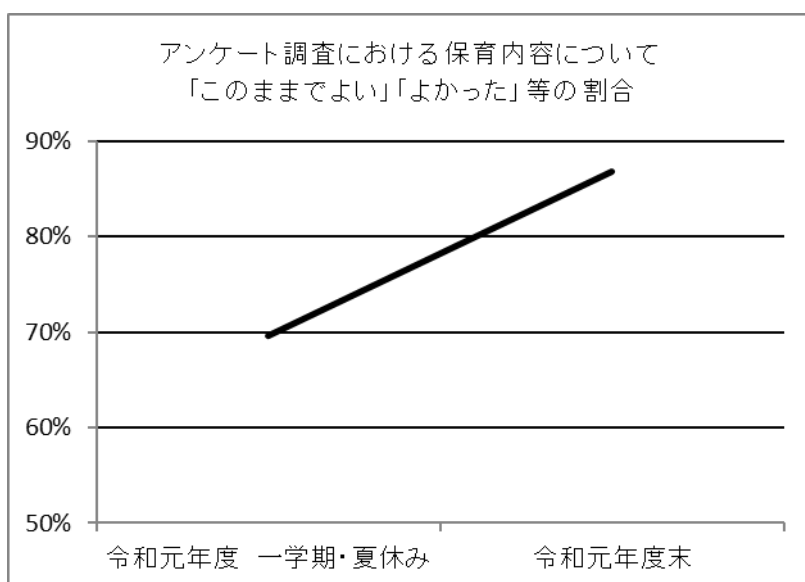
育成室での当番活動やおやつの時間などでは、異年齢で構成した班での活動を行い、班で協力して各自の役割を果たすよう促している。取組やイベント等でも、なるべく班行動をして、一人ひとりが役割を持って集団生活を送る意識が持てるように促している。

(2) 保育内容に対する保護者の意見について

これまで行った2回のアンケートの調査結果から、回答があった過半数の保護者は「このままでよい」や「よかった」等の回答をした保護者の割合が令和元年度末では約87%と非常に高い割合となっており、保護者からの評価が高くなってきていることが読み取れる。

令和元年一学期・夏休みのアンケートにおいて「このままでよい」の次に多かった回答の「子供たちみんなで行う取組をもっと増やすべきである。(10.9%[5人])」が、令和元年度末では5.3%[2人]に減少していることから、しっかりと保護者意見を保育に反映して集団作りにつながる取組を実践し、学級懇談会や学級だより等において保護者への周知も図れていたと推察できる。【表4】

【表4】



(3) イベント（季節ごとのイベントやお誕生日会等）について

クッキング保育は夏休み期間中に週1回程度、お誕生日会は基本的に誕生日ごとに開催するなど、他の育成室と同程度にイベントを実施している。とりわけ他の育成室に見られない取組として、多くの児童が自己肯定感を高めることができるよう、塗り絵や折り紙、けん玉など複数のコンテストを開催していることが佐井寺育成室の特色と言える。様々な内容のコンテストを毎月開催し、色々な児童にスポットが当たるような取組を継続して実施することで、児童同士の発見や各自の自信に繋がっている。

(4) おやつ提供について

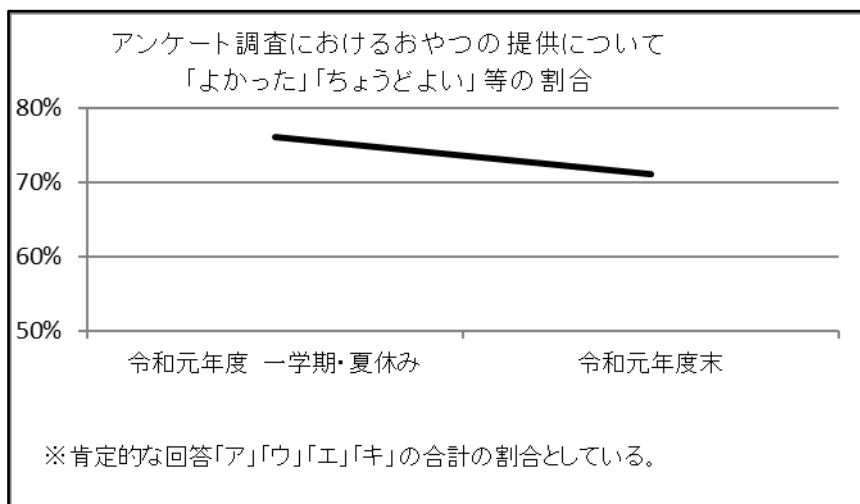
佐井寺育成室では、なるべくアレルギー未使用のおやつを選び、アレルギー食材を含むおやつを提供するときには、アレルギー児のアレルギーとなっている原材料が含まれていないと確認できた別のメニューを提供している。提供方法についても、アレルギー児が誤って食べないように、皿の色を分けて児童自身も視覚で判別できるよう

工夫したり、配膳担当指導員と責任者が二重で確認した上で提供することで万一の事故につながらないように徹底をしている。

(5) おやつ提供に関する保護者の意見について

アンケートの回答では、【表5】のとおり、おやつに関して「よかった」や「ちょうどよい」等の肯定的な意見が令和元年度は70%台で推移しており、概ね高い評価を得ている。令和元年度末のアンケートの回答結果を見ると、おやつに関して「量はちょうどよかった(22.0%[13人])」に対し、「量は少なかった(6.8%[4人])」、「量が多すぎた(6.8%[4人])」と回答が割れている。また、「袋菓子ばかりのおやつは止めてほしい(8.5%[5人])」という回答もあり、自由記述欄では「補食の観点からこれまでのように野菜や果物、ヨーグルトなども取り入れてほしい」や「手作りのおやつを提供してほしい」といった回答が一学期・夏休みアンケートから継続して見られることから、現在のおやつメニューに関して、保護者の声に耳を傾けて丁寧に意見をくみ取りながら、栄養価や腹持ち等の補食の観点や種類のバランス等の様々な要素を考慮したメニューの改善を図るなど、より良い運用方法を継続して検討し、実践してもらいたい。

【表5】



3 指導員について

(1) 指導員の配置について

佐井寺育成室は、2教室での運営であるため、教室に配置する指導員が4名となっている。また、配慮を要する児童に対する加配が2名必要で、1日当たり6名の指導員の配置が必要となるが、きめ細やかな保育のため、独自に1、2名配置人数を多くして、1日当たり7～8名の指導員の配置を行っていた。指導員の保有資格としては、小学校・幼稚園の教諭、保育士及び放課後児童支援員の資格を保有しており、およそ半数の指導員は資格を保有している。

指導員間のチームワークは非常によく、教室ごとに指導員の配置図を作成し、出欠確認やおやつ配膳担当などの業務分担・役割を明確にして勤務している。また、毎日の主任指導員への報告、保育日誌の記載、ミーティングを通して全指導員間で情報共有するなど、育成室の保育内容の充実・向上を図る努力を感じることができた。

(2) 指導員の児童との関わりについて

委託事業者は、指導員と子ども達の関わりを重視しており、あらゆる場面で指導員が子ども達の輪の中に入り、一緒に遊ぶことで児童とのコミュニケーションの充実を図り、信頼関係を築く姿勢が見られる。外遊びでは、児童と遊びながらも全体に目を配っている様子や、水分補給の声掛けを行っていた。指導員と子ども達との信頼関係はしっかりと構築されており、場面の切り替わりにおいても、指導員の指示がスムーズに子ども達に伝わっている。

子ども達は指導員を信頼しており、指導員は子ども達の心をしっかりとつかんでいるため、佐井寺育成室は賑やかに声が交じり合い、楽しい雰囲気を持った育成室となっている。

(3) 指導員に関する保護者からの意見について

令和元年度年間を通じてのアンケートにおいて、指導員に対して保護者がどのような考えを持っているかを聞く設問があり、複数回答可としている。

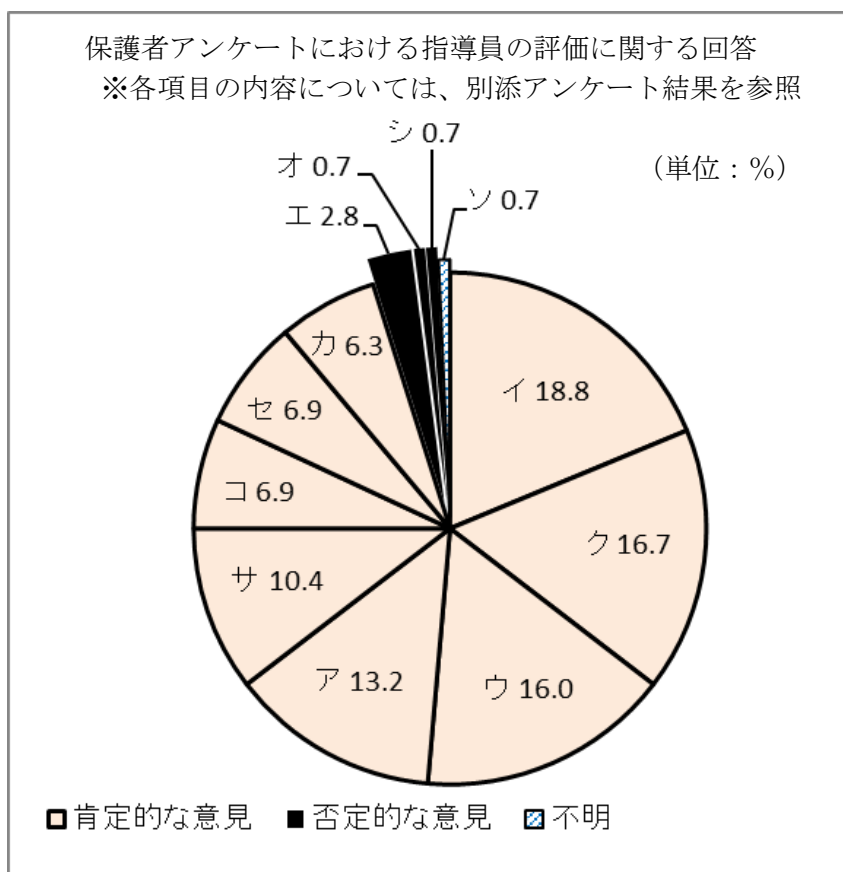
回答が多かった順に上位3つを挙げると以下のとおりになっている。

- 1位…「指導員は児童の輪に入り、積極的に児童と関わりを持っていた」18.8%[27人]
- 2位…「いつも明るく、元気に児童や保護者と接することができていた」16.7%[24人]
- 3位…「連絡帳や電話などを使い、育成室での出来事を保護者に適切に伝えることができていた」16.0%[23人]

上位の3つの回答で全体の約52%を占めており、さらに指導員に対して肯定的な意見をすべて含めると、全体の約78%と高い評価となっている。

今後は、少数意見ではあるが、一生懸命業務に取り組んでいないように感じている意見があるので、更に高い評価が得られるように期待したい。

【表 6】



4 総合的な評価について

(1) 放課後子ども育成課による評価について

放課後子ども育成課職員（担当事務職員、スーパーバイザー）による現地視察及び事業者への聴取のもと総合的な評価として、佐井寺育成室の運営については、以下の理由により高く評価することができる。

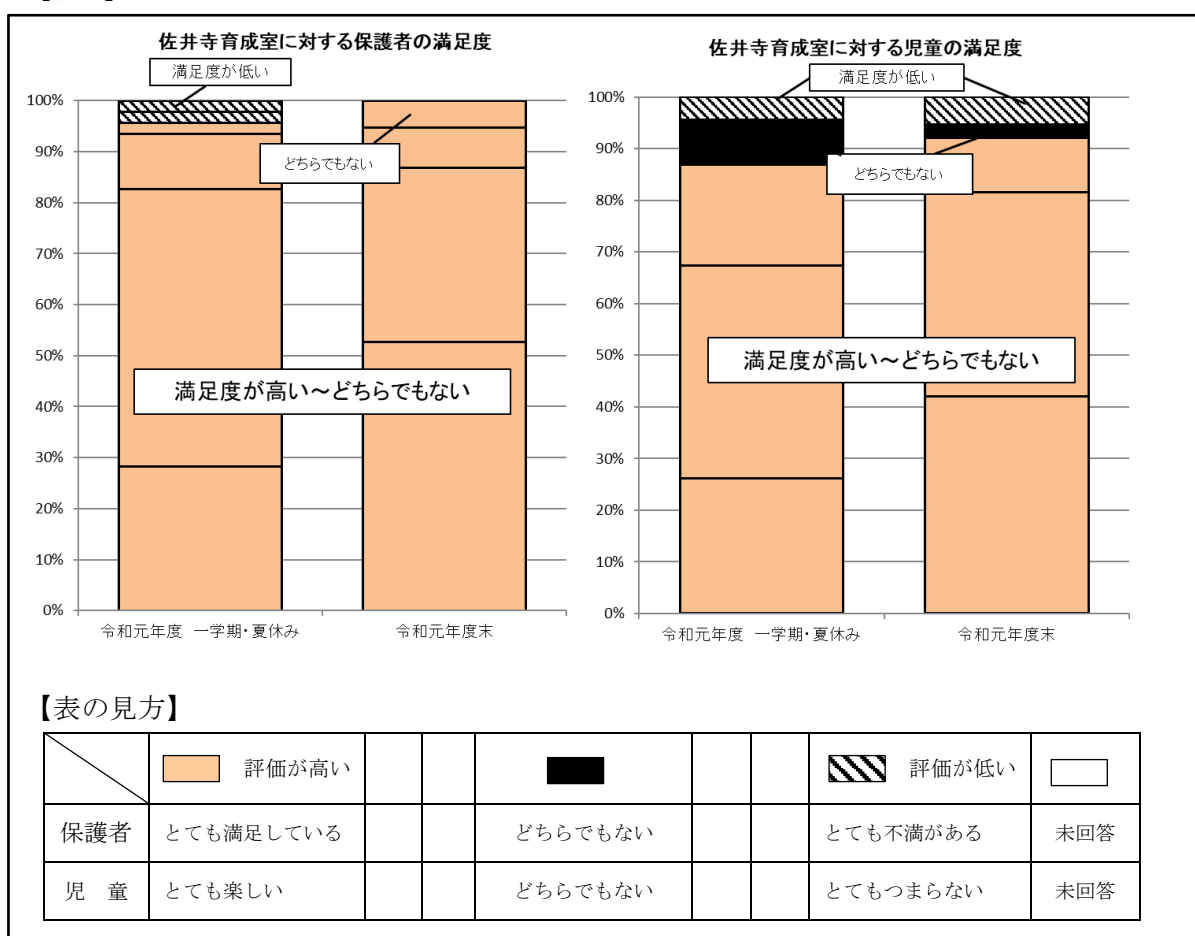
- 1 育成室では、入室児童が笑顔で楽しく活発に過ごしている。
- 2 指導員が常に子ども達とコミュニケーションをとっている。
- 3 連絡事項については、主任指導員、委託事業者、放課後子ども育成課の間で共有が図られており、組織だった運営が行われている。
- 4 育成室の運営では、直営育成室の取組を基本として、様々な新たな取組を組み入れて子ども達を育成しようとする姿勢が見られる。
- 5 保護者への情報提供の場として、懇談会を学期ごとに開催しており、保護者との意見交換の場を設けている。保護者同士が交流できるように、学年や下校ルートごとに分かれて話をする機会をつくるなど、保護者との連携の重要性を理解し、協力関係の構築に努めている。

(2) 保護者へのアンケートにおける総合的な評価について

保護者へのアンケートには、「子ども達にとって佐井寺育成室はどの程度楽しい場所か?」を聞く設問と「保護者にとって佐井寺育成室はどの程度満足できるものとなっているか?」を聞く設問を設けている。その結果から見える事業者の運営状況の総合的な評価としては、「保護者や児童からも、概ね高い評価を受けている」と言える。

しかしながら、アンケートではごく少数であるが、「情報が共有できているか不明なことがあった」、「連絡ミスが多かった」等、指導員として求められるべき部分がないとする意見もあり、全体的な評価の良さに楽観視せず、現在の高い評価が落ちないように、これからも注意していく必要がある。

【表 7】



5 終わりに

これまでの放課後子ども育成課職員による視察や保護者へのアンケート等による様々な検証、その他小学校をはじめとする関係機関との日々の連携による状況把握の結果、現在の委託事業者は、平成 30 年度は良好な保育や育成室運営が行われていることが確認できた。

アンケートの自由記述欄においても、「お姉ちゃんたちと一緒に遊べるのが楽しい」、「けん玉など家や学校でなかなかしない遊びも上の子たちが教えてくれる」等、子ども達

が育成室を楽しんでいる様子が書かれた記述が多くあり、また、「毎日学年関係なくみんなで遊んだり、宿題を教えてもらったり、リーダーをしたりで、毎日学童に行くことで成長を感じる」、「委託初年度は何かとあったが、保護者との意見交換もあり、今年度は安心して学童に通わせることができた」等、保護者が満足している内容の感想が書かれた記述も多く、事業者との信頼関係が構築できてきたことによって保護者の満足度が高くなってきていると推察できる。子ども達と保護者にとって、現在の育成室は「安心できる、楽しい場所である」との認識が広がっている。

現在の委託事業者には、今後とも現在の方針を継続し、保護者、学校、放課後子ども育成課としっかり連携を密にした運営を行い、同時に、普段から子ども達と保護者の声に耳を傾けて、改善が必要などころはないかを丁寧に検証しながら、更なる向上を目指してもらいたい。